

2月6日 更新 JA全農ミートフーズ株式会社

項目

1.国産

供給

2.輸入

○ 令和2年12月度全国の肉豚出荷頭数は1,519千頭(農林水産統計1/29公表 前年同月比102.7%、前月比104.6%)となった。
12月の全国地域別出荷頭数を前年同月比で見ると、北海道103.8%、東北102.0%、関東103.9%、北陸甲信越103.1%、東海109.7%、近畿96.7%、中四国101.1%、九州・沖縄101.1%となった。
○ 令和3年1月の全国と畜頭数は、速報値で1,397千頭(1/29まで集計)、前年同月比96.8%となっている。稼働日数では昨年より1日少ない19日となり、1日当たりの平均と畜頭数は速報値段階で73,542頭となっている。(前年は72,200頭/日)
○ 農水省食肉鶏卵課令和3年1月27日付肉豚生産出荷予測によると、今後の出荷予測頭数は令和3年2月1,307千頭(前年同月比99%)、3月1,409千頭(同98%)、4月1,365千頭(同94%)、5月1,338千頭(同104%)となっている。
○ 令和2年12月の輸入通関実績は豚肉全体で71.5千ﾄﾝ(前年同月比98.9%、前月比101.4%)となった。
内訳はチルドが36.8千ﾄﾝ(前年同月比107.0%、前月比95.7%)、フローゼンが34.6千ﾄﾝ(同91.5%、同108.4%)となった。
主な国別では、チルドがカナダ18.0千ﾄﾝ(前年同月比104.4%)、米国17.7千ﾄﾝ(同 108.0%)、メキシコ1.1千ﾄﾝ(同145.9%)となった。
フローゼンは、メキシコ7.1千ﾄﾝ(前年同月比100.0%)、デンマーク6.6千ﾄﾝ(同120.3%)、スペイン6.3千ﾄﾝ(同65.3%)、米国3.4千ﾄﾝ(同149.0%)、カナダ2.9千ﾄﾝ(同98.8%)となっている。
チルドは底堅い内食需要が継続しており、前年同月の輸入量が少なかった反動により前年を上回る結果となった。フローゼンは外食需要の減少などから引続き調達を抑える動きがあり、前年を下回る結果となった。

1.家計消費

2.小売動向

12月概況

1月概況

3.加工肉仕向量

○ 総務省発表の令和2年11月期家計調査報告によると、全国二人以上の1世帯当たり豚肉購入数量は1,920g(前年同月比107.6%)、支出金額が2,746円(同109.1%)となっている。
○ 日本スーパーマーケット協会など食品関連スーパー3団体の12月の販売統計速報によると、既存店ベースでの畜産部門の売上高は1,352億円(前年同月比107.4%)となった。年末・正月商戦ではステーキやすき焼き用和牛などの高単価商品を中心に好調だったとしている。一方で、帰省客減少により売れ筋に大きな影響を受けた店舗がみられたとの報告がなされた。外食自粛による家庭内消費需要が堅調に続いており、全体的には好調に推移したとしている。
前年の暖冬からの反動や青果の相場安を追い風に鍋用食材の引き合いが強く、豚肉や鶏肉が好調となった。牛肉は国産、輸入問わず好調となり、加工肉は家庭向けが好調だったとしているが、ギフトについては好不調が分かれているとの報告がなされた。
○ 日本チェーンストア協会が公表した12月販売概況によると、畜産品の売上は1,070億円(店舗調整後で前年同月比108.6%)となり、2月以降11か月連続で前年実績を上回り、前月比でも121.2%と大幅に上回る結果となった。
○ 1月は緊急事態宣言の発出などにより、引続き内食需要が継続するなか、全般的に量販店などの販売が底堅く推移した。輸入チルドポークは通関遅れが生じ一部アイテムで品薄感が強まるなか、量販店などの鍋物需要によりベリーなどのスライス系のアイテムの荷動きが良く、全体的に堅調な荷動きとなった。
冷蔵部位では鍋物需要が引続き好調となり、バラ・カタロースの引合いが強かった。冷凍品の国産物はバラ・カタロースが堅調な荷動きとなり、輸入物については、外食需要が激減した状況を反映し全体的に荷動きが鈍かった。
○ 日本ハム・ソーセージ工業協同組合発表 令和2年11月の豚肉加工品仕向量は33.5千ﾄﾝ(前年同月比97.5%、前月比103.1%)となった。
この内、国内物が7.0千ﾄﾝ(前年同月比101.5%)、輸入物が26.5千ﾄﾝ(同96.6%)となっている。
なお、上記仕向量とは別枠のシーズンドポークは10.3千ﾄﾝ(前年同月比101.5%)となっている。

1.在庫

1.R3年1月速報値

2.予測

R3年2月

○ 令和3年1月の東京食肉市場枝肉相場は、速報値(1/29時点)で497円/kg(前年同月比109.7%、前月比92.9%)となった。
需要面では緊急事態宣言発出などに伴い内食需要が底堅く続いており、量販店などの荷動きが堅調となった。
供給面において輸入チルドポークは北米からの入船遅れが続いており、全国と畜頭数が前年同期を下回る出荷となった。相場は中旬から軟調な展開となったものの、緊急事態宣言の発出等により内食需要が継続したことなどから、全体としては前年同月を上回る結果となった。
○ 農畜産業振興機構発表の2月出荷予測頭数は1,307千頭(前年同月比98.8%)と予測している。
2月については①供給面において、輸入品の入荷が入船遅れなどにより不安定で、国内生産量が前年を下回ると見込まれ、②需要面において内食需要が継続すると見込まれることに加えて、非常事態宣言が延長されたことなどもあり、相場は底堅い展開と予測する。
ただし、出荷頭数や新型コロナウイルスの影響に伴う行政対応等による相場への影響には引続き注視が必要である。
＜相場予想: 東京市場、税込み＞
【上物】(前年比)
R2年12月実績 535円(104.9%)
R3年1月速報値 497円(109.7%)
R3年2月予測 520円(119.5%)
R3年3月予測 530円(109.7%)

国内生産量の推移

農水省出荷予測 (千頭:%)

暦年

国内出荷頭数

千頭

前年比

暦年

出荷予測

頭数

前年比

H28年

16,379

101.7

R3年 2月

1,307

99

H29年

16,338

98.3

R3年 3月

1,409

98

H30年

16,429

100.6

R3年 4月

1,365

94

H31年

16,320

99.3

R3年 5月

1,338

104

R2年 9月

1,347

104.7

令和3年1月27日更新

R2年 10月

1,481

101.1

R2年 11月

1,452

102.4

R2年 12月

1,519

102.7

輸入量の推移

財務省:通関実績

暦年

輸入数量

チルド数量

トﾝ

前年比

トﾝ

前年比

H28年

861,149

108.9

355,501

110.3

H29年

932,048

108.2

398,847

112.2

H30年

924,971

99.2

406,752

102.0

H31年

958,963

103.7

407,360

100.1

R2年 10月

72,480

86.3

35,096

95.6

R2年 11月

70,550

85.2

38,552

105.8

R2年 12月

71,547

98.9

36,877

107.0

家計消費量

(㍑, 円, %)

暦年

全国1世帯当たり

数量

前年比

金額

前年比

H28年

20,431

103.0

29,484

99.3

H29年

20,785

101.7

30,025

101.8

H30年

21,514

103.5

30,591

101.9

H31年

21,178

98.4

29,637

96.9

R2年 8月

1,827

112.1

2,710

116.1

R2年 9月

1,769

104.2

2,605

106.8

R2年 10月

1,915

105.9

2,751

107.7

R2年 11月

1,920

107.6

2,746

109.1

加工品仕向量

市況の推移(東京市場)＊税込み

暦年

加工品仕向量

千ﾄﾝ

前年比

暦年

豚枝肉「上物」

円/kg

前年比

H28年

370.5

98.9

H28年

524

93.7

H29年

376.6

101.6

H29年

569

108.6

H30年

376.6

100.0

H30年

518

91.0

H31年

372.1

98.8

H31年

524

101.2

R2年 8月

30.2

98.8

R2年 10月

538

107.2

R2年 9月

30.1

99.8

R2年 11月

531

116.5

R2年 10月

32.5

98.1

R2年12月

532

104.3

R2年 11月

33.5

97.5

R3年1月速報

497

109.7